

●編集顧問／牧野永城、菅原克彦、阿部令彦、出月康夫、武藤輝一、田島知郎、萩原 優、北島政樹、炭山嘉伸、跡見 裕

●編集委員／畠山勝義、桑野博行、宮崎 勝、島津元秀、渡邊聡明

●編集同人／佐野圭司、近藤芳夫、阪口周吉、鈴木章夫、秋山 洋、塩谷信幸、諏訪邦夫、岡崎春雄、松元輝夫、折田薫三、細田泰之

本号の特集は「消化器外科手術における新しい潮流」である。新しい術式を臨床応用するには、動物を用いた基礎的な検討や、その術式の前段階の手術についての多くの臨床経験が必要である。また現在では、実施にあたって倫理委員会や適応委員会などの客観的な審査を要することも少なくない。さらに、患者への十分な「説明と同意」が必須であることは言うまでもない。

従来は、医師が主導する治療について素人である患者が正確に理解するように努力する姿勢は医師・患者相方に乏しかった。もちろん、以前から「説明と同意」は両者の間で行われてきたことであるが、その内容についての今昔の差は大きい。最近では「インフォームド・コンセント」としてリスクとベネフィットについて具体的なデータを示して詳しく説明するようになった。十分な「説明と同意」は診療を円滑に行うために不可欠であり、医師の義務、患者の権利として尊重すべきであることに異論はない。しかしながら、高難度手術やハイリスク手術の場合、その内容はしばしば患者にとって不安や緊張を与えるものとなり、その治療への期待と希望を削ぐ結果になることもあるのではないだろうか。

医師の質には患者との関係において4段階のレベルがあるという。最も好ましい「上医」は優れた医療技術を持ち、リスクや悪い結果には言及せず、患者に不安を与えずに治癒させる医者である。「中医」はこれらについて詳しく説明するので患者に不安を抱かせるけれども、結果的にはよい治療をして治癒に導く。「下医」は予防線のためにリスクや合併症を過剰に説明し、実際にも技術が未熟なために合併症を起こす。「下医」よりも下位の「最下医」はいい加減な説明で患者に期待を持たせて治療を受けさせ、その期待を裏切って死に至らしめる医者である。

これは寓話であり、現在の医療現場に「上医」は見当たらないし、「最下医」もまた例外的な存在であろう。結果からみると「上医」と「最下医」には雲泥の差があるにもかかわらず、患者の目からは両者は紙一重の場合もある。手術の成功率を過大に示して虚偽の説明を行ったと非難された医師が、別の患者からはたとえ示されたデータに齟齬があったとしても、希望を与えてくれた頼もしい医師と評価され感謝されたと聞いた。医師と患者の信頼関係や「インフォームド・コンセント」について考えさせられた次第である。

(島津元秀)

臨床外科 (第65巻第5号)

発行 株式会社 医学書院
代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23
☎ 社内案内 (03) 3817-5600
販売部直通 (03) 3817-5659・5660
振替口座 00170-9-96693 番

2010年5月20日発行(毎月1回20日発行)

定価 2,730 円 (本体 2,600 円 + 税 5%)

2010 年年ぎめ予約購読料 40,160 円
電子ジャーナル閲覧オプション付 52,200 円
増刊号を含む 13 冊, 税込, 送料小社負担

☎ 本誌編集室直通 (03) 3817-5708
ファクシミリ (03) 3815-7802
E-mail: ringe@igaku-shoin.co.jp

担当 田村・川村・安部
印刷所 三報社印刷(株) 電話 (03) 3637-0005
広告申込所 日本医学広告社 電話 (03) 5226-2791

- Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2010, Printed in Japan
- 本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信(送信可能化を含む)に関する許諾権は医学書院が保有しています。
- **JCOPY** (株)出版者著作権管理機構 委託出版物
本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(株)出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。
- 医学書院ホームページ(インターネット)は <http://www.igaku-shoin.co.jp> です。
- 「臨床外科」ホームページは <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/ringe/> です。